

平成20年度 施策評価シートの見方

◆総合計画における位置付け等

平成20年6月 日記入

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	14130
政策名(章)	第4章 人間性豊かな子どもを育成します	評価担当局	企画財政局
基本施策名(節名)	第1節 ゆとりある学校教育の創造	施策所管課	企画政策課
施策名	高校・大学機能の活用	課長名	淡野 浩

総合計画における目標や施策名、所管課等の基本情報等

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

市内の高校・大学が有する資源や人材を生かすことで、まちづくりの担い手が育ち、新たな文化・福祉・産業が発展することを目的とする。

施策の目的と概要を記入

2 事業費・人員

(単位:千円)

年度	平成17年度(決算)	平成19年度(決算)	増減の主な理由
事業費	48,010	1,000	再掲事業の削除による減
人件費	267,743		
市民一人あたりの事業費(単位:円)	72	1	
合計	315,753	1,000	

* 人件費は、職員一人あたり H17:805万円、H19:805万円として算定。人口は、66.7万人(H18.4.1現在)、70.6万人(H20.4.1現在)とした。

前回比較が出来るように平成18年度実施分(平成17年度決算)分を表示した。(人件費については、合併要因分の分析が出来ていないため、今回は未実施。)

3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	目標値の考え方(根拠)
指標1	相模原・町田大学地域コンソーシアム高等教育機関参加機関数	相模原・町田大学地域コンソーシアムの参加機関として関わった高等教育機関の数	組織化されたコンソーシアムの参加機関となり、主体的に関わることによって、高校・大学の機能が活用されているのかを表す。
指標2	相模原・町田大学地域コンソーシアム事業延べ実施機関数	相模原・町田大学地域コンソーシアムが実施した事業(受託事業を含む)に関わった高校及び高等教育機関の延べ数	コンソーシアム実施事業において、参加機関に限らず、どの程度、高校・大学の機能が活用されているのかを表す。

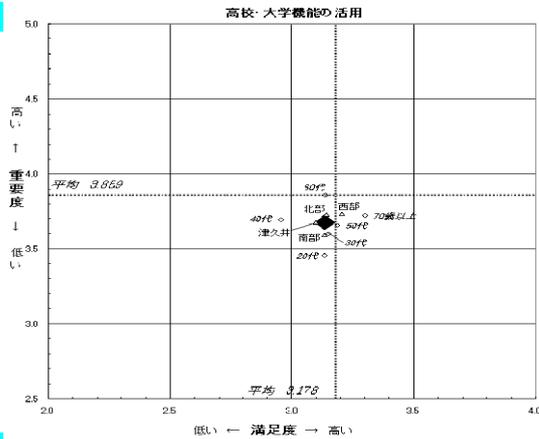
○原則として、成果指標の検討を行い設定しているが、活動指標で代理しているケースもあり。
○指標の考え方は、指標の基準値の定義に。目標値の考え方は、目標値の考え方に記載した。
○2次・3次評価で指標の検討を指示され、追加したものは青字で追加した。

	基準年	基準値	H19		H20		H21		H22	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
指標1 (単位:) 事業費/ 人員	H19	15.0	16.0	16.0	18.0		20.0		22.0	
指標2 (単位:) 事業費/ 人員	H19	39.0	39.0	39.0	42.0		46.0		50.0	

○基準年、基準値に対して、各年度で目標値を設定し、今回の施策評価では、平成19年度の実績値で評価を実施した。
○青字で追加した指標については、今回の評価の対象指標としていないため、目標値等の設定は、次回までに設定する。

4 市民満足度調査結果(平成20年度実施分)

○この施策の満足度は3.134で121施策の中で66番目。
 ○重要度は3.675で90番目である。
 ○改善要望度は-0.0991で85番目である。
 ○年齢別にみると、満足度は70歳以上で最も高く、40代で最も低くなっている。重要度は60代で最も高く、20代で最も低くなっている。
 ○地区別にみると、満足度は西部で最も高く、津久井で最も低くなっている。重要度は西部で最も高く、南部で最も低くなっている。



○平成20年5月に実施した市民満足度調査の結果をそのまま引用した。
 ○満足度、重要度が平均と比較して当該施策がどの位置にあるのかを確認するとともに、評価の視点としても活用した。

5 1次評価(2つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	H18評価点	前回(H18)評価結果との比較分析
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 (2) 1	4 (2) 1	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 2 (1)	4 2 (1)	
合計		3		評価結果に基づく区分(2項目の合計点数による) A(6点以上) B(5点・4点) C(3点以下)
				1次評価 C

*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

○1次評価とは、当該施策を所管する局で評価を実施した。
 ○評価の視点は、今回は「有効性」、「市民満足度」の2点。次回は、「効率性」も加える予定。
 ○別に定める「評価基準」によって、評価点を決め、合計点で「ABC」評価を実施した。
 ○「ABC」の評価については、赤字の*を参照ください。

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	高校・大学機能の活用は、基本的に、様々な分野において施策達成のための手段の一つとして捉えるものであるため、活用そのものを施策とすると構成する事業は限られてくる。
解決策	新しい総合計画を策定する中で、施策の構成等について検討する必要がある。

評価結果から見えてくる課題と解決策を記載した。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

	2次評価 C
--	-----------

*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

○2次評価とは、市の管理部門による評価。
 ○経営的な視点から評価を実施し、必要に応じてコメントを付した。

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

学生中心のワークショップの設置数や共同開催事業数なども指標として検討すること。	3次評価 C
---	-----------

*Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

○3次評価とは、市民等で構成する「行政評価検討委員会」による評価。
 ○市民や民間の視点で評価を実施し、必要に応じて所管課ヒアリングを実施した。